

平成30年度 基盤研究（S） 審査結果の所見

研究課題名	ペプチドシグナルを介した植物成長の分子機構
研究代表者	松林 嘉克 (名古屋大学・大学院理学研究科・教授) ※平成30年7月末現在
研究期間	平成30年度～平成34年度
コメント	<p>本研究は、植物の生理におけるペプチドホルモン群の働きを解明することを目的としたものである。</p> <p>応募者は、新規の植物生理活性ペプチドとその受容体を発見し、生理機能を明らかにする先駆的研究を行い、当該分野をリードしている。本研究では、植物細胞が分泌するペプチドのみならず、非分泌型ペプチドや外来ペプチドをも研究対象としており、新たな生理活性ペプチドと受容体を明らかにし、植物体におけるそれらの働きの分子機構と生理機能を解析することとしている。</p> <p>本研究の進展によって、様々なペプチドを介した植物の生理の分子機構が明確になることを期待する。</p>